

# 地域を愛する子どももの育成

## く共に汗を流す地域と学校く

### 一 はじめに

今年七月の西日本豪雨災害で甚大な被害を被った真備町のある倉敷市は、四国から山陰地方へつながる南北の交通軸と、東西に走る山陽道が交差する中国地方の拠点となる人口約四十八万人の中核市である。また、古くから江戸幕府直轄の天領として発展し、その時代の風情を今に残す白壁倉庫群と大原美術館のある美観地区を有する観光地でもある。

本校は、その美観地区から南に約三キロにあり、倉敷の第二の商業圏を学区とする四十八年前に分離新設された比較的新しい学校で、今年度は全校児童七百九十六名、三十学級でスタートしている。また、「愛と

信頼による共感的理解を基盤として、心豊かで心身ともにたくましい児童の育成」を学校教育目標とし、「汗を流して働く子」「親切で優しい子」「たくましく強い子」「考えて工夫する子」という「あしたか」の学校名に合わせた四つの目指す児童像を掲げて日々教育活動を展開している。

### 二 具体的な教育活動

学校教育の使命の一つに、その地域を支える人材を育成することが挙げられる。そのためには、地域を誇りに思い、主体的に地域に関わる心情を育てることが欠かせず、地域や学校への所属感や一体感の醸成が必要である。そこで、児童像の一つでもある

「汗を流して働く」を、地域と一体となつて積極的に行うことを学校教育の一つの柱としている。

#### (一) 地域連携による学校支援事業

本校は、地域コーディネーターが校内に在中している強みを生かし、学校支援地域本部を幅広く活用している。放課後や休日の体験活動や登下校の見守り、運動会等の学校行事における駐輪場整理など様々な場面で地域の方々の協力と支援を受けているが、特に学習支援活動に力を入れている。

具体的には、五年生の家庭科で、茶葉販売会社の方がお茶の種類やおいしい入れ方についてのゲストティーチャーとなつてくださっている。また、五・六年生の調理実習やミシン学習、裁縫学習時には多くの保護者や地域の方にボランティアティーチャーとして支援していただいている。

一年生では、昔遊びや野菜の収穫のゲストティーチャー、二年生では、学区探検の



5年生と“TEA茶一”

付き添いや算数科の九九大会の判定員として授業に入っていた。その他の

教科や読み聞かせなどでも様々な形で支援を受けており、昨年度は学習支援活動だけでのべ約五百名の実績を上げている。

また、毎月二回三年生以上の希望者を対象に尺八に親しむ会を実施しており、のべ約五百八十人の児童が技術を磨き、市の伝

統芸能祭や学区敬老会でその腕前を披露している。

さらに、毎月二回始業前の時間全クラスで、のべ約二百四十人の地域の方が本の読み聞かせをして、児童を本の世界に引き込んでくださっている。

### (二) 顔が見える学校づくり

学校が地域と深く連携し、共に汗を流すためには、地域が学校の様子を知るための幅広く多様な情報発信を行う必要がある。そこで、学校便りを保護者に配付するだけでなくホームページに掲載したり、定例の民生委員会で配付・説明したりする取組を行っている。

さらに、管理職以外の教職員も地域の方々に顔を覚えてもらい、関係性を深めることが重要と考え、地域主催の様々な行事に教職員が積極的に参加するよう呼び掛けている。教職員は夏祭りや餅つきなど可能な範囲で参加しているが、特に、公民館

ごとに激しい優勝争いが毎年繰り広げられる「学区運動会」には、教員チームとして毎年オープン参加し共に汗を流している。

また、学区の商店街が毎年開催する「教育懇話会」に中学校教員と共に参加し、学校の情報交換や教育観の交流を行い、地域と教職員の信頼関係を深めている。

### 三 おわりに

本校は、四十八年前に開校した当初から、「みんなの葦高協議会」という名が表すように、団結力が高く自主の精神に溢れ、地域や学校のために「汗を流す」ことを惜しまないコミュニティーの方々に支えられてきた。代替わりをしながらも脈々と受け継がれているこの地域の誇りと主体的な風土を、次の世代に確実に伝え残していくことが、この地域の方々に対する本校の責任だと考えている。

(文責・校長 吉仲 潤)

学校☎〇八六―四二四―一五三三